

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク  
佐伯地域 行動計画書  
(自 2018 ～ 至 2022)



**Sobo, Katamuki  
and Okue**  
Biosphere Reserve

*Saiki Is No.1*

2018 年 6 月

佐 伯 市

## 1 計画書の位置付け

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク佐伯地域行動計画書（以下「佐伯地域行動計画書」という。）は、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会（以下「協議会」という。）が策定した祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク管理運営計画書（2017年9月9日発効）（以下、「管理運営計画」という。）及び祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク行動計画書（以下「行動計画書」という。）に掲げた基本方針及び今後5年間の取組に基づき、佐伯地域における今後5年間の具体的な行動を示すものである。

## 2 計画書の概要

佐伯地域では、「傾山・藤河内溪谷」を代表とする原生の大自然を抱え、古くから郷土芸能など自然への畏敬を背景に持つ伝統的な文化が継承されており、地域住民の一人ひとりが自然の恵みに感謝し、核心地域を含めた貴重な自然を大切にする意識が深く根付いている。ユネスコエコパークとして国際的に認証されたことは、地域住民がこの地域の価値を再認識する上で極めて大きな効果を持ち、登録によって郷土への愛着、誇りが一層増し、これまでの取組への自信にも繋がることが期待される。

この行動計画書では、佐伯地域における行動の拠点を「道の駅宇目及びうめキャンプ村」の一带と定め、地域住民や関係機関などが一体となり、ユネスコエコパークに求められる機能を最大限に発揮し、豊かな森、水、生き物などの自然環境を、自然への畏敬の念とともに次世代にしっかりと継承していく。また、ユネスコエコパークの理念に沿った形で続けられてきた人々の営みを、自然と人間社会の共生を図りながら、持続可能な地域づくりを行っていく。

なお、必要に応じて計画期間中に計画内容の見直しを行うことがある。



道の駅宇目・うめキャンプ村

## 行 動 理 念

尖峰と溪谷が育む森と水、いのちの営みを次世代へ  
～自然への畏敬をこめて～



### [ユネスコエコパークに求められる3つの機能]

#### I 保存機能

景観、生態系、種及び遺伝的多様性の保全に寄与する。

#### II 学術的研究支援

地域レベル、国レベル、世界レベルでの保全や持続可能な発展に関する広報活動、環境教育・研修、調査研究、モニタリング活動を支援する。

#### III 経済と社会の発展

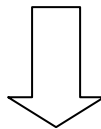
社会文化的にも生態学的にも持続可能な経済及び人間の暮らしにおける発展を助長する。

〈基本方針1〉 貴重な生態系の持続的な保全を図る

〈基本方針2〉 学術的研究や調査・研修への支援を図る

〈基本方針3〉 自然と共生した持続可能な発展を図る

佐伯地域が目指すもの



**国際的ブランドを活用した特色あるまちづくり**

郷土愛による自然環境の保全・自然体験

地域住民が誇る郷土芸能文化の保存・継承

農林業を含めた観光産業の推進・確立

### 3 行動内容

#### 〈基本方針1〉 貴重な生態系の持続的な保全

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークは、日本列島の幅広い植生と豊かな動植物相をもつ、極めて多様な生物種の宝庫である。本地域では、祖母傾山系の急峻な山岳地形や、地史が生み出した複雑な地質・地形に加え、地域住民の山や自然に対する信仰や畏敬の念が要因となり、奥山地域の原生的自然環境が守られてきた。

また、複雑な地形の制約により様々な土地利用形態が生まれるとともに、地域住民の高い自然環境保全意識のもと、住民主体の自然保護活動が活発に行われてきた結果、原生的自然環境が残された核心地域やそれを取り巻く緩衝地域に限らず、人々が生活する移行地域にも貴重な種が生育・生息する、生物多様性の高いスポットが広範囲に分布している。これらの貴重な生態系を持続的に保全していくには、法的・制度的保護をしっかりと行いつつ、継続的な調査研究活動によって得られた知見をもとに、保護・保全の体制を充実していくことが必要である。また、地域住民全体に自然環境保全や生物多様性の重要性が理解されるよう、住民主体による保護・保全活動の一層の推進が必要である。

今後は、地域住民への普及啓発を継続、充実させるとともに、自然環境にある貴重な生態系を住民の手によって保護し、自然環境保全活動を行う住民組織や小学校・中学校への活動支援により、環境保全の取組を推進していく。

#### 【主な取組】

- ◇子どもたちへのユネスコエコパーク登録の周知、理念の浸透
- ◇小学校・中学校の生態系保全活動への支援
- ◇地域住民への普及啓発活動
- ◇住民団体等とのネットワーク化



藤河内溪谷 アカハライモリ





小学校 生態系保全活動



中学校 生態系保全活動



佐伯地域ユネスコエコパーク推進協議会

## 〈基本方針2〉 学術的研究や調査・研修への支援

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークでは、住民の高い自然環境保全意識のもと、移行地域内にも極めて貴重な自然環境が保護されていることや、過疎高齢化の中にあっても自然環境の保全と利活用が持続可能な形で継続されていることなどが特徴である。このような環境の下、住民が主体となり、森林や農地、河川を保護する活動が熱心に行われていることから、地域の団体や学校と連携し、地域住民や次世代を担う子どもたちが、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、自然と調和のとれた持続可能な教育を推進していくことが重要である。

今後は、学校教育においても地域の特色を活かし、自然環境の調査や自然を体感する活動を積極的に行い、教育プログラムにおける環境教育活動を充実させるとともに、有識者と連携を密にしながら、地域が一体となった取組を推進していく。

### 【主な取組】

- ◇学術的研究を行う施設整備
- ◇有識者と連携した調査・研究活動
- ◇自然保護や郷土文化を受け継ぐ次世代育成事業
- ◇ユネスコエコパークエリア内の学校のユネスコスクール登録推進



小学生 生物調査



中学生 自然体験キャンプ

### 〈基本方針3〉 自然と共生した持続可能な発展

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークでは、先人たちの持続可能な利活用によって守られた豊かな森林や農地、河川などの清らかな水環境があり、その中で住民は、自然環境保全活動を積極的に行いながら、持続可能な形で産業を発展させている。20世紀半ば以降、社会・産業構造は大きく変化した。近年では、自然の価値を再評価する動きなど、人々の自然回帰の傾向が高まっている。このような時代の潮流を先んじてとらえ、時代に即し、時代が求める利活用を進めるとともに、地域の発展を支える次世代の担い手をしっかりと確保、育成する取組を行い、持続可能な発展を遂げていく必要がある。

今後は、生物多様性や自然環境保全などの公益的機能を重視した農林業、自然体験や自然の持つ癒やし効果を軸とするツーリズムの振興、古くから伝わる郷土芸能文化の保存継承など、地域資源の持続可能な利活用を時代が求める形で発展、継続させ、自然と共生した地域づくりを行っていく。

また、地域における担い手の確保や次世代の人材育成も重要であり、本活動の理念の根幹である郷土芸能は、地域住民の結束と誇りにより、地域の子どもや若者を含めた伝承活動が熱心に行われており、郷土の歴史や文化に触れながら、豊かな心と郷土愛に満ちた人材を育成していく。加えて、地域外からの人材を積極的に受け入れ、地域の自然的、文化的価値の再発見に地域外からの視点を取り入れるとともに、基幹産業である農林業の担い手や新たな産業の創出等を担う人材として活用していく。

さらには、自然環境や生活環境の変化により、森林や農地、河川の荒廃に伴う地域住民の環境保全に対する意欲の衰退、集落の疲弊を招かないよう、関係機関と連携した取組を行う。

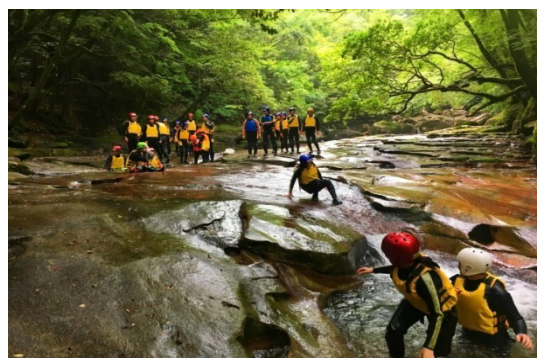


## 【主な取組】

- ◇ユネスコエコパークミュージアムの整備
- ◇拠点となる道の駅宇目及びうめキャンプ村の施設の整備・充実
- ◇ユネスコエコパークの統一グッズ等の製作によるPR活動
- ◇遊歩道・案内板・体験施設等の整備による来訪者に対する受入環境の整備
- ◇企業等と連携した各種取組
- ◇郷土芸能文化の保存・継承支援
- ◇自然体験学習等による自然・文化を学ぶ機会の充実
- ◇ユネスコエコパークブランドの形成
- ◇オーガニックの研究・取組
- ◇自然と共生したツーリズムの展開
- ◇積極的な情報発信
- ◇エコパークガイドの育成
- ◇関係機関との連携による環境保全対策
- ◇ユネスコエコパークの積極的活用による移住・定住の促進



傾山 登山



藤河内溪谷 キャンイオニング





佐伯（宇目）地域 郷土芸能



佐伯（宇目）地域 農林産物